

東京大学本郷構内の遺跡

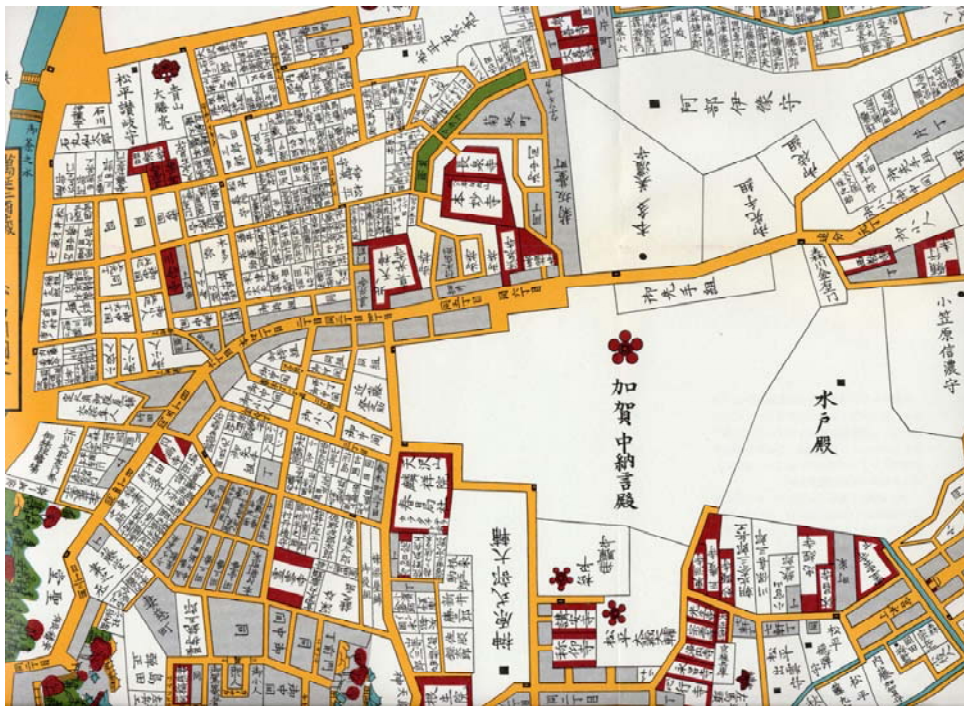
工学部3号館地点の発掘調査

東京大学埋蔵文化財調査室では、工学部新3号館新築に伴いまして、今年1月より埋蔵文化財の発掘調査を進めてまいりました。

現在、江戸時代の加賀藩上屋敷跡、近代の東京帝国大学の建物跡などとそれに伴う遺物が確認されています。

I. 江戸時代

江戸時代、本郷キャンパスは加賀藩邸とその支藩である大聖寺藩邸や富山藩邸、水戸藩邸など大名屋敷が多く存在していました。加賀藩は国内最大の雄藩で、上屋敷である本郷邸も10万坪を超える広さを持っていました。屋敷は中央に藩主とその家族が住む御殿、それを取り囲むように家臣が住むエリアがあり、これらは明確に分かれていました。現在も残る三四郎池は御殿の庭園でした。

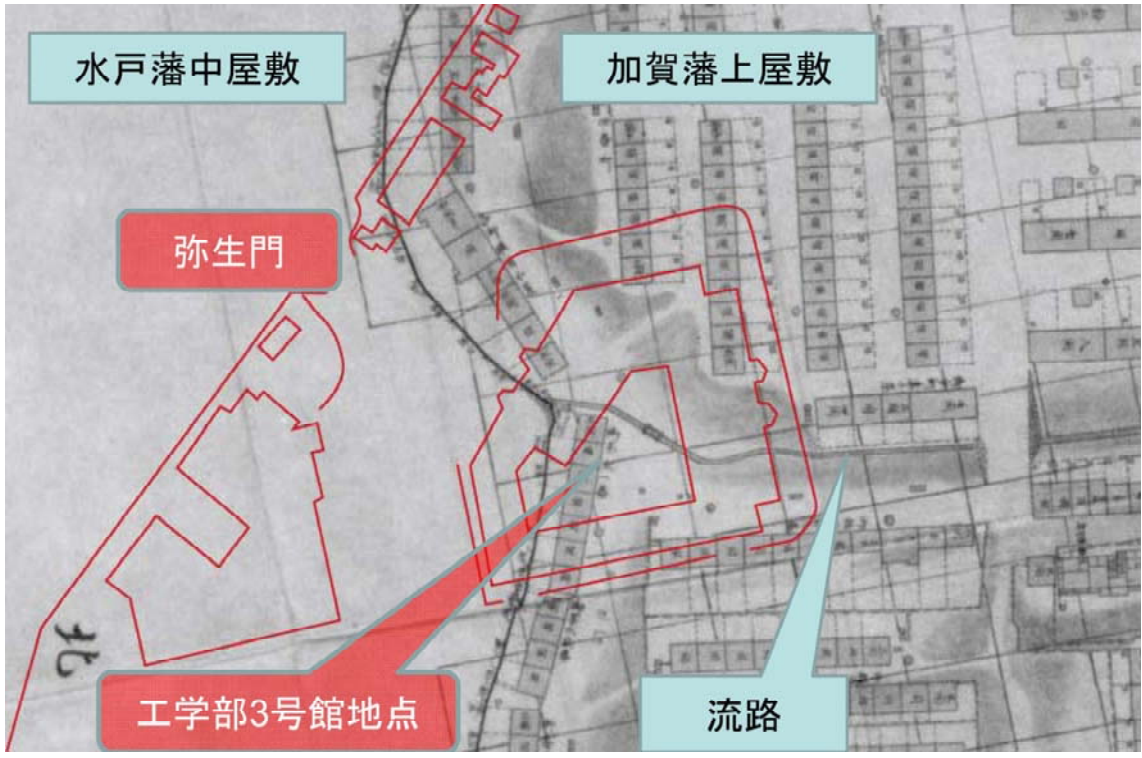


江戸時代の本郷周辺

現在、調査を行っている工学部3号館地点は、加賀藩上屋敷と水戸藩中屋敷との藩邸境にあたります。中央には加賀藩庭園（現在の三四郎池）から不忍池に流れ出る川谷とその周囲に家臣の長屋があった場所でした。

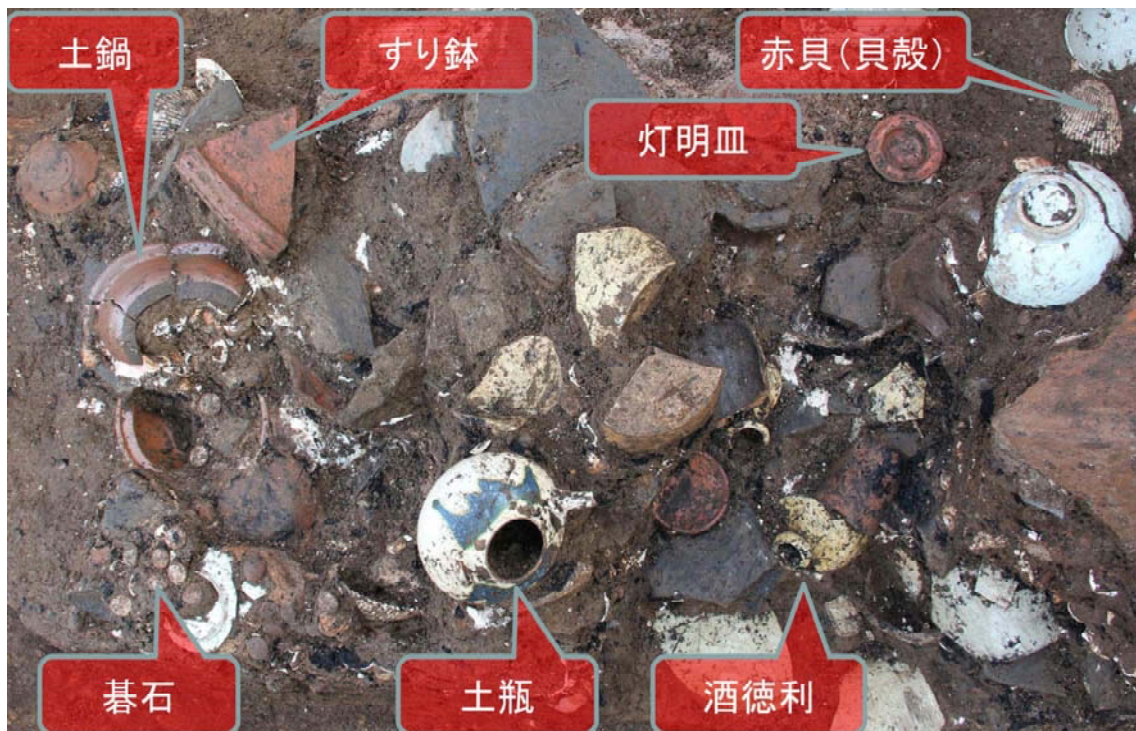


江戸時代の加賀藩邸（1840年代）

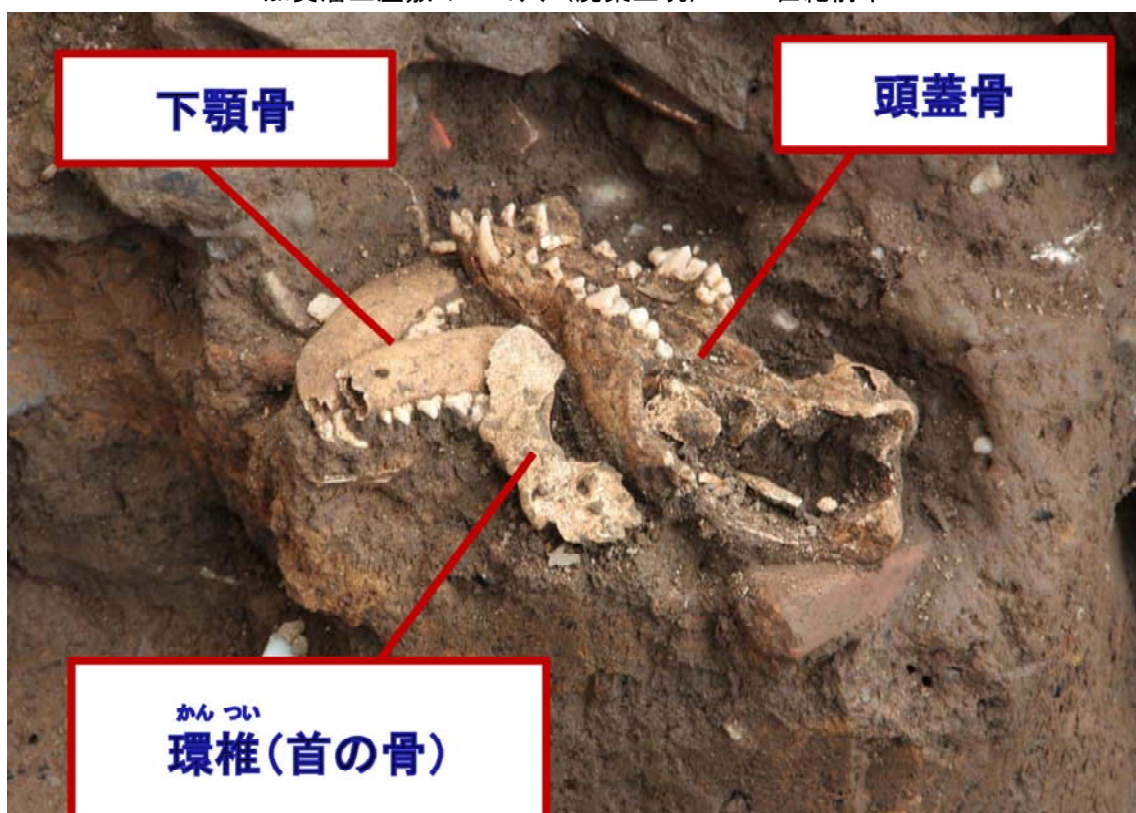


調査区の位置（江戸時代：1840年代の絵図面と合成）

藩邸の屋敷境などにはゴミ穴が作られ、そこからは当時の江戸勤番藩士の生活道具や食べたものが多く出土します。酒徳利が多く出土するのも特徴です。



加賀藩上屋敷のゴミ穴（廃棄土坑） 19世紀前半



イヌ頭骨出土状況 (19世紀前半)

II. 近代

本郷キャンパスは、近代最初期から文部省用地から大学の敷地となり、調査地点には、動物学地質学鉱物学教室校舎（明治40年代～昭和8年）、旧工学部3号館（昭和14年～平成22年）があり、教育・研究がされていました。



左：
動物学地質学鉱物学教室校舎
（明治43, 44年の状況）
右：
旧工学部3号館
（昭和14年の状況）



確認され
た旧校舎
の建物基
礎